

60の提言に基づく取り組みを、基本目標別にまとめました。

### ■ 次の世代へ！ 躍進する農業づくり

- ★ 新規就農者の確保
- ★ 安定した農業経営の推進
- ★ 生産組織の設立・運営の支援
- ★ いきがい、ふれあいを楽しむ農業の推進

- ★ ブランド化の推進
- ★ 農商工連携の推進

- ★ 粗飼料用作物栽培と畜産農家の契約締結推進
- ★ 環境保全型農業の推進

- ★ 省力・省エネ・低コスト技術の推進

- ★ 農地の適切な維持管理
- ★ 鳥獣害対策の推進

- ★ 耕作放棄地への取り組み

### ■ 親しみと理解のある食と農の関係づくり

- ★ 直売所の活用
- ★ 加工品への利用

- ★ 直売所の特徴づくり
- ★ 直売所の情報を提供できるシステムづくり

- ★ 市内の直売所などが連携できるシステムづくり

- ★ 食と農の関係を学ぶ機会の提供
- ★ 農業体験の実施

- ★ 学校給食での取り組み

### ■ 活力ある農村づくり

- ★ 医療福祉施設などの大型消費先との連携
- ★ 買い物を楽しめる制度の導入

- ★ 食と農に特化したイベントの開催
- ★ 地産地消の「実感」と「場」の発掘

- ★ 農作業の請負体制の整備
- ★ やりがいや喜びのある農業の促進



# 60の提言



総社新農業会議の佐藤会長から答申を受け取る市長

総社の農業を元気にし、1人でも多くの農業者を増やそうと、おおむね今後10年間の農業の指針となる『総社市農業ビジョン』ができました。

## 『総社市農業ビジョン』を策定

# 総社の農業を元気に！

## 生産・加工・流通・消費・行政の連携で推進

農業の指針となる総社市農業ビジョンは、生産・加工・流通・消費・行政の各分野の委員で構成される総社新農業会議（会長・佐藤豊信岡山大学副学長）が策定。「総社の農業を元気に！連携と連動、互いに力を合わせ活力のある農業づくり」を基本理念とし、「次の世代へ！躍進する農業づくり」「親しみと理解のある食と農の関係づくり」「活力ある農村づくり」を目標に掲げています。

総社の農業は水稲が主体で、ブドウやモモ、ナス、セロリは県下有数の産地になっていきます。しかし一方で、農業従事者の高齢化や担い手不足、農業振興地域内の農地の4%に当たる79%（今年3月現在）が耕作放棄地になるなどの課題があります。

同会議は昨年5月に発足し、担い手の育成や地産地消、商品にならない規格外農産物の有効利用などをテーマに、取り組むべき具体

的な施策を協議。就農サポート協議会（仮称）の設置による「新規就農者の確保」、有機農業や農薬の安全使用などによる「環境保全型農業の推進」、小規模農家が生産する農産物の集荷から販売や学校給食への導入による「直売所の活用」、食生活とリンクした情報発信機能や専門的知識をもつ販売員など「直売所の特徴づくり」、地域の農業を持続するため「農作業の請負体制整備」などの実現に必要な

60の施策提言をまとめました。

委員24人が出席し10月21日、同会議がサンロード吉備路で開かれ、答申内容を確認。佐藤会長から市長に手渡された答申書が、『総

社市農業ビジョン』となりました。佐藤会長は「ここからがスタート。市民と行政が協力して取り組むことを願います」としました。市では今後、同ビジョンを踏まえ、平成23年度から

生産・加工・流通・消費・行政が連携して取り組む実行プランを策定し、できることから取り組んでいきます。

問い合わせ 農林課農林係（☎08271）

